

こども自然共生活動推進プログラム助成
「湿地帯の再生によるふれあいの場づくり」

- ★ 日 時：平成22年9月12日(日) 9:30～15:00
- ★ 場 所：いやしの森(周東町用田)
- ★ 参加者：50人(こども 21人・大人 29人)
- ★ 主催者：周東里山の会

1 スケジュール

9:30～	開会行事
9:40～12:00	保全活動(いやしの森の整備)
12:00～13:00	昼食
13:00～15:00	水辺の教室

2 活動内容

昔の里山の機能を復活させ次世代に豊かな自然を残すため、こどもたちとともに日が差し込む山になるよう間伐作業を実施しました。

また、里山の池を利用して水辺の教室を開催しました。

【活動内容】



周東里山の会会長のあいさつ。事務局から実施内容、注意事項等の説明を受けました。ヘルメットを被る等の身支度を調べて、いやしの森に入りました。午前中の約2時間、休憩をとりながら間伐作業を実施しました。



最後までやり抜きました



多くの子どもたちは、大人に見守られながら鋸を使い間伐作業をしました。中には、一緒に参加した保護者から鋸の使い方を習いながら、共同作業をする姿もみられました。



午後からは、水辺の教室を実施しました。講師は、水辺の教室指導員で環境カウンセラーの後藤益滋先生で「周東町は、他の地域では少なくなっているゲンゴロウ等も生息している。今日は、この湿地や池に生息している生きものについて調べてみる。近くの池の生きものも機会があれば調べてみて欲しい。」と参加者に話されました。

池の中に入ったところで、早速 会の橋本氏がウシガエルを捕まえました。先生はウシガエルについて説明をされました。「ウシガエルは特定外来生物に指定されていること。移動や飼育や譲渡も禁止されていること。この池に戻ってしまうと他のいきものがみんな食べられてしまうこと。近くに生息地があれば、自分で移動してくること。もともとは、外国から食糧として連れてこられたこと。」食したことのある参加者からは「鶏肉みたいで美味しい。」と紹介がありました。しかし、食べたいという声は上がりませんでした。



子どもたちは、池に入り生きものを探しました。池の水は午前中整備した山の方からゆるやかに流れてきて、下流をせき止めて水量の調節をしてあります。今日の水深は、浅い場所はくるぶしあたり、深い場所でも幼児の膝までに調節してありました。



オニヤンマ（幼虫）、コオニヤンマ（幼虫）、マツモムシ、ミズムシ、カワニナ、ミズカマキリ、オオミズスマシ、アメンボ、アカガエル等を見つけることができました。オニヤンマは 5～6 年位の期間を幼虫で過ごすそうです。大きさが違う個体が見つまっていることから、毎年オニヤンマが産卵に来ていることがわかるということです。これには参加した大人も感激で、「世代が更新されている証拠でうれしい。生きものが住みやすい環境を作っていこう」と決意を新たにしていました。アメンボを捕まえたこどもに、後藤先生が「においをかいてごらん」とアドバイスされました。おそろおそろ臭ったこどもは「くさっ」と一言いい、みんなに臭わせてくれました。ひとしきり臭ったところで、先生から、「アメンボはカメムシの仲間だよっ、とわかる臭いがしたかな」と言われました。一同納得の様子でした。

時折、日が陰る天気であったことが幸いして、山の作業も池での水辺の教室も順調でした。木を切ると山に日が差し明るくなることを体験したこどもたちは、大人に間伐してもよい木を教えてもらいながら、鋸を動かしていました。

水辺の教室では、生きものを通して学校が違う異年齢のこどもたちが仲よくなり、最後は泥水状態の池の中で頭まで濡らして遊んでいました。大人達もその様子を「こうでなくちゃね。こどもは、自然の中で体験することが一番。」と目を細めていました。

保護者のみなさま、お洗濯ごくろうさまでした。